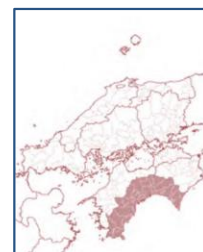
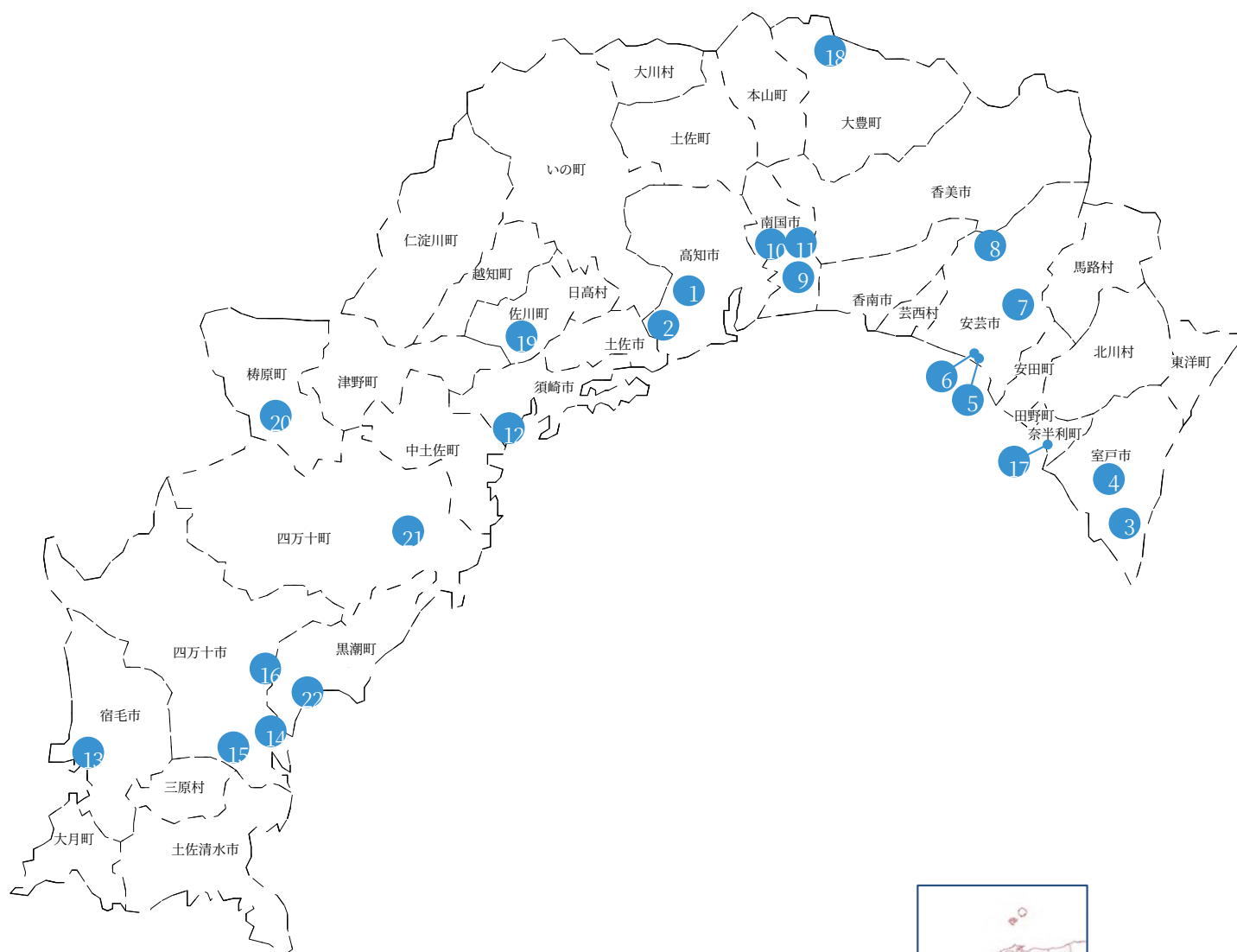


高知県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体等 一覧 高知県)

No	選定 団体等	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		個人	高知市	井上 聖也	農業	食育・教育	多様な分野との連携
②		団体	高知市	土佐ベルガモット協議会	農業	6次産業化	企業との連携
③	地方 奨励賞	団体	室戸市	高知県立室戸高等学校	企業との連携	ジビエ	学生・若者の活躍
④		団体	室戸市	日南・大平集落活動センターひなたぼっこ	農業	6次産業化	高齢者の活躍
⑤		団体	安芸市	安芸 釜あげちりめん井」楽会	水産業	地産地消	食育・教育
⑥	地方 奨励賞	団体	安芸市	安芸市農福連携研究会	農業	農福連携	
⑦		団体	安芸市	入河内大根のこそう会	農業	地産地消	伝統の継承
⑧		団体	安芸市	有限会社はたやま夢楽	農業	6次産業化	雇用
⑨		団体	南国市	高知農業高等学校畜産総合科3年 加工班	農業	6次産業化	企業との連携
⑩		個人	南国市	斉藤 佳洋	農業	6次産業化	地産地消
⑪		団体	南国市	農家レストラン「まほろば畑」	伝統の継承	食育・教育	女性の活躍
⑫		団体	須崎市	株式会社山岸竹材店	6次産業化	伝統の継承	環境保全・農林水産業・食品産業)
⑬		団体	宿毛市	高知県立宿毛高等学校 すくもっともりあげ隊	伝統の継承	学生・若者の活躍	関係人口の創出
⑭	地方 奨励賞	団体	四万十市	高知県立幡多農業高等学校	農業	食育・教育	学生・若者の活躍
⑮	地方 奨励賞	個人	四万十市	山本 美加	農業	農泊	食育・教育
⑯	地方 奨励賞	団体	四万十市	りん	荒廃農地対策	教育機関との連携	食育・教育
⑰		団体	奈半利町	一般社団法人なはりの郷	農業	6次産業化	荒廃農地対策
⑱		団体	大豊町	集落活動センターそばの里 立川	移住・定住	学生・若者の活躍	関係人口の創出
⑲		団体	佐川町	特定非営利活動法人とかの元気村	移住・定住	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑳		団体	梶原町	ゆすはらジビエの里	ジビエ	鳥獣被害防止	移住・定住
㉑		団体	四万十町	JA高知県四万十エコ栽培米生産部会	農業	食育・教育	高齢者の活躍
㉒		団体	黒潮町	鞭地区資源保全クラブ	高齢者の活躍	農村環境・景観保全	

応募団体等所在市町村図（高知県）



いのうえ せいや
井上 聖也

Jリーガーが育てる本気の野菜

概要

- J3のサッカークラブチーム、高知ユナイテッドSCにゴールキーパーとして所属。
- 農業に親しみを持っており、自分が育てた野菜をチームメイトに食べてもらいたいとの思いから、サッカー選手をしながら家庭菜園「井上ファーム」を始め、独学で多品種の野菜を栽培。
- 栽培した野菜を高知ユナイテッドSCのホーム戦時に売り始めたところ好評で、販売イベントを複数回開催している。



井上ファームで収穫した野菜



ホーム戦時の販売イベント



幼稚園児とのじゃがいも掘り体験

成果

- 農園で幼稚園児とさつまいもやじゃがいも掘り体験を行うことにより、食育を実践している。
- 高知ユナイテッドSCのホームゲーム時に、栽培した野菜をサポーターに販売し、売り上げを伸ばしている。
- 毎年、栽培品種数を増やし、販売イベントの回数を増加させている。

soccerkg0625@gmail.com

関連情報はこちら ▶

と さ きょうぎかい
土佐ベルガモット協議会

高知を香りで呼べる地へ

概要

- 平成21年に柑橘農家（株）にしごみと加工事業社（スタジオオカムラ）により、ベルガモットプロジェクトを立ち上げ、イタリア原産のベルガモットの国産化を目指し、生産者は栽培技術の確立、加工事業者は商品ならびに用途開発に取り組む。
- 特に栽培技術に関して、高知県他産地での広がりも念頭におき、情報開示できるようきめ細かく記録をしてきた。特徴的な香りを持つ柑橘であることから天然香料としての価値創造も挑戦し、令和7年7月に協議会として組織化している。

成果

- 栽培技術の確立及び生産性の向上から10アールあたり1,000千円以上の生産所得を達成し、栽培希望者も増えたことから協議会を設立。栽培技術の開示と合わせて品質の安定、規格基準を定めた。
- 栽培面積も当初の40アールから令和7年現在150アールほどに拡大し、地域の宝物にするため「記憶に残る香り」の挑戦を続けている。



破棄ビニールハウスを整備して、栽培を開始



ハウス栽培と並行し、露地栽培を開始



土佐ベルガモット収穫祭のメディア取材

〒781-0302 高知市春野町弘岡中668
088-894-2531 mikan@nishigomi.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞こうちけんりつむろとこうとうがっこう
高知県立室戸高等学校

目指せ！ふるさとの未来を創るグローバルプレイヤー

概 要

- ユネスコ世界ジオパークを教育に活用し、市や大学と連携し地域の未来に貢献する人材を育成している。
- 生徒は、地質・自然・文化を調査し、観光客向けジオツアーの企画・ガイド、防災イベント、地域PR動画制作などの実践活動に取り組んでいる。
- 室戸岬に繁茂する侵略的植物であるウチワサボテンの除去と利活用でスムーズなど商品試作やジビエの商品開発に取り組んでいる。



生徒によるジオガイドツアー

成 果

- 防災リテラシーや自然科学の知見を生かした学びが深化し、市防災課と連携した地域住民向け防災教室など地域との協働も広がった。
- 活動は全国高等学校グローバル探究オンライン発表会で金賞を受賞するなど高く評価され、高校生による地域と世界をつなぐ新しい価値を創出するモデル校として、地域活性化と人材育成を同時に実現。



小学校対象の防災教室

〒781-7102 室戸市室津221
0887-22-1155 320102@ken.pref.kochi.lg.jp

関連情報はこちら ▶

ひなた おひらしゅうらくかつどう
日南・大平集落活動センターひなたぼっこ

幻の伝統野菜「ぼたなす」で日南・大平地区を元気に！

概 要

- 交流関係人口の増加を目的としている観光交流部会や、ぼたなすと田芋の生産者の増加や付加価値の向上を目的とした農林業部会に地域住民が所属し、様々な活動に取り組んでいる。
- 令和6年度に「ぼたなす倶楽部」を立ち上げ、幻の伝統野菜「ぼたなす」の集出荷事業をスタートさせ、県内外に出荷している。



モーニング

成 果

- 生産者にぼたなす倶楽部に加入してもらい、集落活動センターひなたぼっこが生産者から買い取った後、県内外へ出荷し、純利益を出荷量に応じて組合員へ還元する仕組みを作った。
- ハイブリットファーム（共同農園）では、ひなたぼっこで所有している土地を生産者ごとに区分けして栽培し、日替わりで水やりや消毒等の管理をしていることにより1人1人の負担を軽減し、生産することが可能となった。



ぼたなす出荷作業

〒781-6832 室戸市吉良川町甲1112
0887-25-3777 2023hinatabocco.life@gmail.com

関連情報はこちら ▶





あ き か ま ど ん が っ か い 安芸「釜あげちりめん丼」楽会

じゃこ食文化で郷土愛を育むじゃこ！！

概要

- 平成22年に設立し12団体21名で活動を開始。現在の構成員は25団体42名。安芸沖で獲れるシラス（ちりめんじゃこ）などの地域食材をPRすることにより、消費拡大や観光客の誘致につなげ地域産業の振興や郷土愛の向上を図る取組。
- 平成25年以降、じゃこサミットを開催し安芸市をじゃこの聖地として全国へPR。
- 出前授業・じゃこゼミナール・講演会を開催。



安芸市の小学校での出前授業

成果

- パンフレットなどの設置、配布、SNS等の活用により店舗を紹介。親子で楽しめるじゃこ文具等のグッズ作成、出店販売、着ぐるみ活動、出前授業、県外との交流も実施。
- 毎月15日を「じゃこの日」として制定。のぼりなどを作成。毎月15日には保育・学校でじゃこ料理を提供。



全国ご当地じゃこサミットの開催風景

〒784-0004 安芸市本町3丁目11-5 安芸商工会議所内 事務局
0887-34-1311 aki006@cciweb.or.jp

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞

あきしのうふくれんけいけんきゅうかい 安芸市農福連携研究会

全ての人が生きがいを持って自分らしく生活できる

概要

- 平成30年、福祉分野での就労受入れ先、農業分野での労働力不足の問題解決に福祉分野と農業分野が連携するため本研究会を立ち上げた。
- 市や県の農業及び福祉の担当部署、特別支援学校、医療機関、JA、その他関係機関がメンバーとして参加。
- 農業の労働力確保や農地等の維持活用、障がい者等の就労機会を確保し、支援体制と連携の確立がとれた取り組みを実施。



雇用に向けたゆず収穫体験

成果

- 農家は、障がい者等がいきいきと働く姿に好感をもち、障がい者等の堅実な仕事ぶりで収量の増加や面積の増加につながった。
- 地域農業にとって生きづらさを抱えた人や障がい者等の雇用が必要となってきた。
- 受入れ農家や同僚ともコミュニケーションがとれたことが自信となり一般就労につながった。



事例や課題を共有するサミット

〒784-0021 安芸市幸町1-16
0887-34-8325 aki-einokikaku@ja.-kochi.or.jp

にゅうがうちだいこん かい
入河内大根のこそう会
入河内大根で交流の輪を広げよう

概要

- 入河内地区に古くから伝わってきた「入河内大根」を保護、継承し地域活性化に資するため農家を中心に会を結成。
- 伝統野菜の入河内大根の収穫、販売等を通じて交流人口の拡大など地域の活性化に繋げる取り組みを行っている。
- 高知市、南国市での大型店舗による対面販売を実施し、消費者との交流を図っている。

成果

- グループや遠方から訪れる人々も徐々に増え、収穫体験などの交流を通じて地域活性化に貢献している。
- 短大・大学生と連携した圃場（約1α）での栽培を通じて学生達との交流を継続している。定期的な交流により、地域の人々が元気をもらっている。
- 「入河内大根定食」をメニュー化、高知市内のホテル等でもメニュー化され「入河内」地域の認知度も高まった。



収穫した入河内大根



学生の収穫体験



こまどり温泉の入河内定食

〒784-0272 安芸市入河内588（東川公民館内）
0887-32-3031 norino01@city.aki.lg.jp

関連情報はこちら ▶



ゆうげんがいしゃ むら
有限会社はたやま夢楽
人口20人の限界集落に年間1,700人を呼ぶ土佐ジロー

概要

- 高知県の地鶏「土佐ジロー」を肉用として飼育・加工し、全国の飲食店や個人消費者へ販売。平成16年から行政所有の温泉宿を指定管理し、令和4年には自社で宿泊施設を建設。
- 取引希望者に産地や特徴を知ってもらった上で、納品する仕組みを構築。
- 焼き鳥店店主を対象とした土佐ジロー合宿（鶏種や育て方の講和、実食など）の開催を経て、常時提供できる講座付きの宿泊プランを開設。

成果

- 令和4年、自社で宿泊施設を開業してからは、より土佐ジローに特化した宿泊プランを展開。
- 関係者と連携した料理、森林浴各種等イベント、インターン生の受入、県内外からの移住者の雇用も実施している。
- 全国や海外からの誘客に成功している。



土佐ジロー合宿



婚活イベントを開催



地域資源とヨガを組み合わせたイベントを開催

〒784-0063 安芸市畑山甲1001-2
090-4787-0413 hatayamamura@gmail.com

関連情報はこちら ▶





こうちのうぎょうこうとうがっこうちくさんそうごうか ねん かこうはん
高知農業高等学校畜産総合科3年 加工班
 畜産農家を救えプロジェクト

概要

- コロナ禍により外食需要が激減し、地元産地鶏の在庫が大量に残る事態に、困窮する畜産農家を助けた高校生たちが、鶏肉の消費促進を目指し、商品開発と販売活動を開始。
- この経験を契機に、「畜産農家を救えプロジェクト」が立ち上がり、活動が継続されている。
- 畜産を学ぶ高校生が中心となり、畜産物を活用した商品開発、食育活動、普及啓発、地域との協働など、多角的なアプローチで畜産農家支援を展開。



百貨店にてカフェを開催

成果

- 地鶏を利用したカレーパンは5万個を販売。小学校での牛乳教室やマラソン大会でのミルクスープ配布などを通じて、地域の食育や畜産物への理解が深まった。課題研究としても高い教育効果を発揮し、キャリア教育として文部科学大臣賞を受賞。
- 牛乳や卵を使ったスイーツ、規格外野菜を加えたソーセージ、赤身肉の有効活用など、畜産物を活かした新たな商品を複数開発。地域企業との連携により販売にもつなげ、生産現場の収益向上にも貢献している。



ソーセージ製造



ミルクスープを配布

〒783-0024 南国市東崎957-1
 088-863-3155 yoko8715@g.kochinet.ed.jp

関連情報はこちら ▶



さいとう よしひろ
斉藤 佳洋

シバが主体でコストを下げ、地域密着で副産物を利用し、さらにその先の持続可能な山地酪農を目指す。

概要

- 昭和62年に山路酪農を愛する会を発足。以降低温殺菌ノンホミジナイズ牛乳の生産に取り組む。
- 飼料がシバ主体の中で、冬場のシバが足りないところを副産物（カブ加工物残渣や四方竹残渣）を産廃ではなく資源として活用し究極なまでの乳飼比削減を目指した取り組みを実施。

成果

- 飼料はタケノコの皮（4企業）、カブ加工品残渣、高知の特産四方竹の皮、くず米、米ぬか、酒粕、ビール粕など関連企業から提供を受け、資源として利用し、経費を圧迫しない低コストな酪農を実現。
- コスト低減により持続可能な山路酪農を目指していく。
- 令和6年、南国斉藤牧場の山路酪農牛乳が楽天市場で上位となる。



山地酪農はシバが主食です



カブ加工品残渣を食べてます



第7回オーガニックフェスタ出品

〒783-0058 南国市白木谷3100
 090-3787-1961 MAH02163@nifty.ne.jp

関連情報はこちら ▶



のうか ばたけ
農家レストラン「まほろば畑」

うちの農家レストランは地産地消ぜよ！

概要

- 毎月1回「農家レストランまほろば畑」を開催。旬の野菜をふんだんに使い工夫した料理や昔から受け継がれてきた郷土料理などのメニューを用意し、バイキング形式で料理を提供。
- 南国市産野菜の認知度アップと地域野菜の消費拡大を図るため、農家レストランでおいしく食べてもらった料理を家庭でも作ってもらえるようにおすすめレシピを数種類作成。

成果

- 平成22年10月にオープンした農家レストラン「まほろば畑」は、令和5年7月には来店者数7万人を達成。旬の野菜をふんだんに使った料理を提供することで、南国市産野菜の認知度アップと地域野菜の消費拡大に貢献。生産者と消費者をつなぐとともに地域の活性化にも寄与している。
- 当レストランの食の技術を生かした土佐田舎寿司を販売することで、料理に対する親しみや愛着を持ってもらい、幅広い層への伝承を行っている。



農家レストランのオープン時の様子



作成した料理レシピ集など



販売した土佐田舎寿司

〒783-0004 南国市大桶甲2301 (南国市役所農林水産課)
088-880-6559 n-chisan@city.nankoku.lg.jp

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃやまぎしちくざいてん
株式会社山岸竹材店

日本唯一の虎竹を次の100年へ

概要

- 明治27年（1894年）に創業。竹材・竹製品製造卸業として131年の歴史を持つ。
- 独特な虎模様が特徴の日本唯一の虎斑竹（とらふだけ）を育む。
- 竹の老舗、竹の専門店ならではの「虎竹のある暮らし」を提案。虎竹を守り次世代へ繋いでいくために、竹林の育成管理、商品開発・販売、情報発信など積極的な取り組みを続けている。

成果

- 竹林の育成（1次産業）、製品の加工・製造（2次産業）、実店舗やECサイトでの販売（3次産業）を一貫して行い、地域の雇用創出や経済の活性化にもつなげている。竹端材等も、自社の伏せ窯で竹炭に加工し、販売。竹材を無駄なく活用し、循環型社会の実現にも貢献。
- 竹は、樹木より多くのCO2を吸収する環境にやさしい素材で、農薬・化学物質不使用の自然に負荷をかけない竹林管理を行っている。虎竹文化を未来へ繋ぐため、持続可能な社会の実現に向けて、竹林保全と循環利用に取り組んでいる。



自社の伏せ窯で焼いた竹炭



竹トラッカー、REIWA-125号、虎竹アーマー



虎竹よさこい地方車「虎竹号」

〒785-0024 須崎市安和913-1
0889-42-3201 info@taketora.co.jp

関連情報はこちら ▶



こうちけんりつすくもこうとうがっこう

たい

高知県立宿毛高等学校 すくもっともりあげ隊

次世代へつなぐ宿毛の輝き

概要

- 高校生と自治会との連携、地域イベントの関係人口の増加、伝統文化の継承。
- 地域課題の解決を目指し、総合的な探究の時間でグループ活動に取り組む。高校生が地域の祭りに企画運営から携わることで、地域の活性化、持続可能な伝統文化の継承につながることを目標に活動。

成果

- 企画運営から携わった「大島盆踊り」のポスターを市内の量販店に持参し掲示。
- 近年なかった出店を企画、準備。当日の盆踊りは、「ヨーヨー釣り」「スーパーボールすくい」「宝石すくい」の運営に加え、アナウンス、盆踊り、お菓子配りを担当した。祭りは近年にない盛り上がりを見せ、主催者や参加者から感謝や労いの言葉を多くいただいた。



祭りの歴史を含めての事前打合せ



市内量販店に掲示したポスター2種



屋台運営の様子

〒788-0008 宿毛市与市明5-82
0880-63-2164 320122@ken.pref.kochi.lg.jp

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞こうちけんりつはたのうぎょうこうとうがっこう
高知県立幡多農業高等学校

幡多っこ食育プロジェクト～食で育む地元愛～

概要

- 四万十市からの相談を元に令和4年11月から幡多農業高校で作った農産物を小中学校の給食に提供する取組を開始。
- 食材の安全・安定供給のため、GAP認証やICT管理を活用。
- 地産地消と食育を目的に持続可能性を重視した供給システムを構築。園芸システム科をはじめ全4学科が参画し、米、野菜、マーマレード等を共同生産。

成果

- トマト・メロンのGAP認証取得やIPM・自然素材活用の安全・環境配慮型農業を実現し、ICT管理で作業進捗と品質を共有・可視化。これら体験を通し生徒の農業経営力等を育成。
- 地産地消の推進により、地域内での循環型経済を促進し、地域活性化に寄与。
- 食育交流活動で小学生と交流し農業理解と地域愛を醸成。累計80,000食を超える給食を提供。



はたのう給食



食育活動や成果発表



全校で食材を納品

〒787-0010 四万十市古津賀3711
0880-34-2166 320126@ken.pref.kochi.lg.jp

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞やまもと みか
山本 美加

農業に未来を 若者に農業を

概 要

- 平成9年の夫のUターン就農数年後に就農。平成13年の米価下落を機に野菜栽培に転換。現在はナバナ、ラッキョウ、青ネギを約20haで栽培。
- 「農業に未来を 若者に農業を」をスローガンに、若者や女性が働きやすい環境づくり、園児から高校生を対象に農業や農家の暮らしの魅力を伝える活動を推進。
- 農業のPRに向けた学生への出前授業や民泊の受入に取り組む。



ナバナの定植作業体験



小学校での出前授業



作業スタッフとの旅行

成 果

- 福利厚生充実、環境整備（男女別トイレ設置、休憩室整備、作業ごとの手順書作成、作業の見える化等）、グローバルGAPに取り組み、若者の雇用につなげた。
- 地元の保育園児や小中学生を対象に、出前授業や農作業体験を実施し、農業は自分の取組が結果に結びつく職業であることを伝えた。首都圏の小中学生や高校生を民泊で受入れ、農作業体験や地域食材使用の調理実習で、高知の食の魅力を伝えた。
- 令和6年からはInstagramで農作業の様子を情報発信。令和6年度の雇用は、女性30人、若者3人。

〒787-0019 四万十市具同5131-1
080-5661-3206 farmyamamotomika@gmail.com

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞

りん

人と自然との調和～ここから繋がる笑顔の輪～

概 要

- 令和5年設立のまちづくりグループ。多業種の民間事業者が集まり、子どもたちが自然と触れ合える場の提供や文化伝承、休耕地を活用した体験型子供向け食育活動を実施。
- 平日は地元幼稚園と連携し、休日は一般の方向けに企画を実施。
- 種まきから収穫、料理、販売、コンポストの一連の循環を、多業種のメンバーで企画ごとに専門性を生かして実施。
- 栽培方法は、環境保全や持続可能な循環型の方法を考慮し、無農薬・減農薬栽培。

成 果

- 休耕地の解消。
- 運営資金は子どもたちが野菜を直接販売し調達した。
- 圃場管理や企画スタッフが年々増加している。一年を通して子どもたちの笑顔と成長の姿が見られた。
- 地域との絆を深め、支え合う関係性を構築。
- 令和6年度の食育体験参加人数は増加し320人となっている。



店頭での販売体験



種まきから始める切り花体験



自分で収穫したトウモロコシ

〒787-1443 四万十市蔵岡乙1951-2
090-2785-1173(代表 西村光平) natural.rin410@gmail.com

関連情報はこちら ▶



いっばんしゃだんほうじん

さと

一般社団法人なはりの郷

40年の歴史が育てた、未来へつなぐひと粒。

概 要

- イチジクの生産や販売、加工品の開発を行うことにより、不耕作地の解消や地域住民の雇用の拡大に取り組み、一次産業の振興を図る。
- 農業部門と直販部門が連携して収穫から販売までの行程をルール化したことにより販売量の増加を目指す。
- イチジクの売上向上と観光への波及につながる取り組みを実施。

成 果

- 高齢化や後継者不足により生産者が減少し、不耕作地が増加していたが、令和2年度には28a、令和6年度には46aまで栽培面積を拡大。不耕作地の解消に一定の成果を上げている。
- 地域住民を雇用することで、地域内での就労機会を創出している。また、作業後の交流などを通じて従業員間のつながりも深まり、地域コミュニティの活性化にも寄与している。
- イチジク栽培は、着実に売上を伸ばしており、有数の生産規模に成長し、奈半利町の観光入込数や観光消費額の増加にもつながっている。



8月下旬に生成期を迎えるイチジク



完熟前のイチジク



朝5時から収穫

〒781-6402 安芸郡奈半利町乙1670
0887-30-1816 naharinosato@mc.pikara.ne.jp

関連情報はこちら ▶



しゅうらくかつどう

さと たじかわ

集落活動センターそばの里 立川

立川地区の里山保全のための移住・関係人口の拡大

概 要

- 大豊町立川地区は、高齢化率が85%となっており、高齢化が進む大豊町内でもさらに高齢化が進んでいる地区になっている。
- 立川地区では、地域内の担い手が減少し、地域内のマンパワーだけでは足りず、地域外のマンパワーも活用する必要があるため、移住・関係人口の拡大に取り組むことになった。

成 果

- 高知大学の留学生を受入れ、春と秋に、茶つみと餅つき体験を行い、自然豊かな立川地区の暮らしへの理解を深めている。
- 高知県立大学の学生団体「おおよ探検隊」が、令和4年から立川地区で活動を行い、広報誌作成や手作りお菓子の販売など、地域住民と協力して立川地区の活性化に取り組んでいる。
- 令和5年にInstagramを開発。立川地区の美しい風景に関心がある人が多く、フォロワー数は、170人ほどになっている。立川地区に住んでいないが、立川地区に関わりがある人を「関係人口」とし、関係人口住民票を発行している。



高知大学留学生受入れの様子



高知県立大学「おおよ探検隊」集合写真



立川住民票のデザイン

〒789-0427 長岡郡大豊町立川下名493
090-1605-9596 stnutt6669@ma.pikara.ne.jp

関連情報はこちら ▶



とくていひえいりかつどうほうじん げんきむら

特定非営利活動法人とかの元気村

『わかもの交流会』で次世代を担う若者を呼び込む!!

概要

- 「特定非営利活動法人とかの元気村」は、佐川町斗賀野地区人口約3千人のエリア全体をカバーし、地域づくりのため、地域の核となる施設「とかの集落活動センターあおぞら」（農村RMO）を拠点とする活動組織。
- とかの元気村の中核メンバーは、60～80代が中心。次の世代にバトンを渡すため、子育て世代を中心とした地域の若者とおしの交流の場を演出し、同じ世代の横のつながりと元気村メンバーとの縦のつながりを深めるため、イベントを企画している。

成果

- 屋外でBBQによる交流を図る「わかもの交流会」を開催し、役割分担を持たせながら、飲食やゲームによる参加で交流し、参加者同士や地域の人とのつながりを深めている。
- イベントでの交流を通じて、元気村の会員になった者や元気村の主催する様々なイベントへの参加者が増え、次世代の人材発掘という当初の目的が達成されつつある。



第4回クイズ大会



第5回ゲーム大会



第6回BBQ会場

〒789-1232 高岡郡佐川町東組2692
0889-20-9860 qqkm3xy9k@beach.ocn.ne.jp

関連情報はこちら ▶



さと

ゆすはらジビエの里

山から里に生命が絆をつなぐゆすはらジビエ8年目の円環へ

概要

- イノシシやシカの肉を自家消費する動きに「『ジビエ』をお金に換える仕組み」という視点を加え、地域資源を有効活用した活力ある地域づくりを目指しNPO法人を設立し活動を開始。
- 猟友会との連携によるイノシシ・シカの年間を通じた安定供給、移動式解体処理車（ジビエカー）の導入による搬入行程の安定化、積極的な新商品（加工品や革製品等）開発及び販路開拓等の創意工夫に取り組む。

成果

- 町補助金の給付期間が満了し人件費補助が支払われなくなった令和5年以降も、キャッシュフロー上の収支はプラスの状態を達成。補助金や交付金を受けずに黒字を維持できている計算になり、自立経営を確立しつつある。
- 梶原小中学校共同調理場の管理栄養士や梶原町教育委員会等との連携により、町内の学校給食に月1回程度梶原町産ジビエを提供。食育支援の観点からも地域に貢献することができている。



ジビエカーでの解体、施設内での精肉・梱包



給食で提供されたジビエハンバーガー



梶原学園生徒へのジビエについての授業

〒785-0644 高岡郡梶原町広野171
0889-65-0850 yusuharagibier@gmail.com

関連情報はこちら ▶



こうちけん しまんとう さいばいまい せいさんぶかい

JA高知県四万十エコ栽培米生産部会

部会員みんなで協力し日本一おいしい米を作ろう!!

概要

- 平成17年に生産者組織「エコ栽培米生産部会」の活動を開始。四万十町(旧窪川町)で米を栽培する農家で構成されており、現在14名で活動中。地元ブランド米である「仁井田米」と差別化をした「JA高知県四万十厳選米」を栽培し、「産地の米価格の維持向上」により、「生産者の安定した所得確保」に努めている。
- 特別栽培の基準に則った環境に負荷の少ない栽培を行う。栽培期間中は毎月現地検討会を行い、栽培期間中以外も栽培検討会や反省会などを開催。生産者間の交流と栽培技術の向上を目指す。



米コンテスト金賞受賞



現地検討会



親子で田植えイベント

成果

- 食味の向上を図るために、栽培期間中は毎月生産者、事務局、指導員及び普及所で圃場を巡回。病害虫の早期発見と対策及び、栽培技術も共有し、新規部会員が入ってもすぐに栽培技術が向上する体制となっている。
- 毎年、お米コンテストへ選抜したお米を出品し、他産地と比較される場へ出すことによって、向上心を持ち続けている。
- 県内の消費者家族に田植えと稲刈りの交流イベントを例年実施するほか、ブランド化を進めている産地への視察等も行い、SNSを通じて情報発信している。

〒786-0027 高岡郡四万十町東大奈路字丸山513

0880-22-3586 kos-shi-hanbai-beikoku@ja-kochi.or.jp

関連情報はこちら ▶



ぶちちく しげんほぜん

鞭地区資源保全クラブ

多様な人々が築く、豊かな地域の未来

概要

- 本組織は、高知県西南部幡多地区の東部に位置し、農作物の育成が旺盛な地域で、過疎化や高齢化を背景に地域資源の維持管理が困難になってきたため、平成19年に活動を開始。
- 現在は、農業者・非農業者合わせて10名で構成され、多様な人材の参画により、景観形成活動及び地域コミュニティ維持、活性化に携わる活動に取り組んでいる。

成果

- 地域の共同活動に加えて、地域のお祭りや老人会イベントによる交流も行われた。草刈りや植栽活動を通じて、地域の景観が美しく保たれ、住民にとって魅力的な環境が整備されている。
- 多様な人材の参画によって地域内のつながりが一層深まり、コミュニティ全体の結束力を高め、地域の活性化に寄与している。



婦人会 植栽活動



地元議員団 農道草刈り



農村文化の夏祭り

〒789-1911 幡多郡黒潮町浮鞭1914

090-5915-6558 pirikaradon90@iwbk.ne.jp